

「ENEX2026 第 50 回地球環境とエネルギーの調和展」の NEDO ブースへ農研機構が参加しました

資源利用研究領域 地域資源・管理グループ長補佐 木村 健一郎

2026 年 1 月 28 日（水）から 30 日（金）まで、東京ビッグサイトにおいて開催された「ENEX2026（第 50 回 地球環境とエネルギーの調和展）」に、農研機構農村工学研究部門として出展しました。

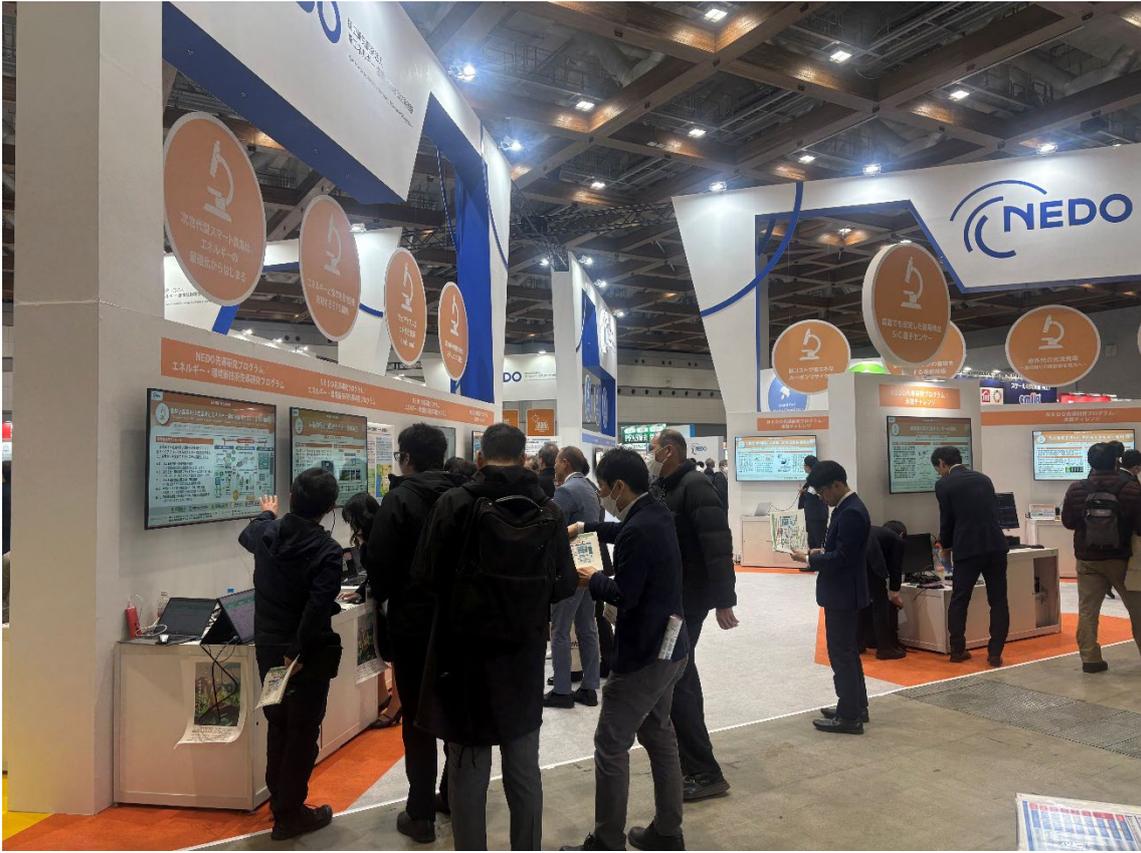
本展示会は、省エネルギー、再生可能エネルギー、脱炭素技術等に関する最新技術・製品が一堂に会する国内最大級の専門展示会であり、期間中は、官公庁、地方公共団体、研究機関、民間企業等から約 4 万人以上の来場者がありました。

当研究所のブースには、エネルギー・環境分野に関心を持つ企業関係者、研究者、行政担当者など多数の来訪者があり、NEDO 先導研究プログラム／新技術先導研究プログラム「農林水産業の生産管理とエネルギー需給が連携する L-EMS（Local Energy Management System）開発」に関する研究成果を紹介しました。担当研究者による直接説明や質疑応答を通じて、農林水産業分野におけるエネルギーの地産地消や、生産とエネルギー管理を統合した新たなエネルギーマネジメント手法の実用化可能性について、活発な意見交換が行われました。

展示期間中は、L-EMS 装置の試作品や映像を用いた説明により、VEMS（Village Energy Management System）の中核技術として開発中の農林水産業向け L-EMS について、分かりやすく情報発信を行いました。本技術は、生産管理とエネルギー管理を統合し、施設園芸、木材乾燥、陸上養殖など農林水産業に特化した設計を特徴とするとともに、A-EMS（Area Energy Management System）と連携することで、地域内での余剰エネルギー融通や、地産地消型エネルギーシステム、VPP（仮想発電所）への展開を可能とします。

来場者からは、実証事例、脱炭素効果、経営改善効果（売上向上）などに関する質問が多く寄せられ、産学官連携や共同研究に向けた有意義な議論が行われました。

今回の ENEX2026 への出展を通じて、農林水産業分野におけるエネルギー需給と生産活動を連携させた技術への関心の高さを改めて確認するとともに、今後の研究開発および技術普及に向けた貴重な知見を得る機会となりました。今後も農工研部門では、展示会等を通じた積極的な情報発信と、関係機関との連携強化に努めてまいります。



会場内で展示説明を行う様子